

つどいの広場のネットワーク



「んぐまーま」はいつでも大盛況。いろいろな遊びを満喫します。

このコーナーでは「つどいの広場」事業を連載します。「つどいの広場」事業は、親子が気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを目的としています。
「つどいの広場」事業の概要については <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/kosodate.html> をご参照ください。

「んぐまーま」(北海道札幌市)

札幌大谷大学短期学部では、開かれた大学として地域の声を教育と研究に生かしたいという願いから、子育て支援センター機能を併せ持ったつどいの広場「んぐまーま」を開設しています。毎週木曜日に開かれる「んぐまーま」は、地域の親子・学生・教員・専門スタッフが和やかにつどい、気軽に情報交換しながら共に育ち合う広場として、重要な役割を担っています。

学生の実践学習の場としてスタート

札幌大谷大学短期学部では、保育科の学生に実践の勉強の場を提供することと、地域に開かれた大学として機能することを目指し、平成17年9月に子育て支援センター機能を併せ持ったつどいの広場「んぐまーま」を開設しました。

毎週木曜日の10時から15時まで、大学の構内にある一室を利用して開催しており、運営は、卒業生が中心となつて設立した保育・子育て支援のプロ「特定非営利活動法人子育て応援かぎぐるま」が受託しています。毎回、保育科の学生もローテーションを組んで実施しています。

「幼稚園や保育園の実習で子どもと接する機会はありませんが、学生が親御さんと接するチャンスはありませんでした。それが広場開設の大きなきっかけです。1回につき35組前後の親子が集まってくれるのは驚きでした。それだけ地域に求められていたのだと思

います」と、開設に尽力された保育科教授で子育て支援センター長の大西道子さんは話します。



札幌大谷大学短期学部
保育科教授
子育て支援センター長
大西道子さん

どの親子も都合のいい時間に来場し、自由に過ごします。お昼ごはんもお手製の弁当あり、近所で調達してきたものあり、大学食堂を利用する親子ありで、それぞれの子どもの生活リズムを大切にしています。

午後には学生が実習に入ります。親子対応組と受付・手づくりコーナー組に分かれ、途中で役割交代をし、両方の実習をします。今期の手づくりコーナーのテーマは「折り紙」で、学生が子どもに体験してほしいと思うものや、文化の伝承につながるものを考えます。学生が折り紙を折っていると、子どもや親が興味深げに寄ってきます。学生が「うまくできたね」と声をかけると、子どもの瞳が誇らしげに輝きます。

目次

- ◆つどいの広場ネットワーク.....2
- ◆特集・平成21年度助成事業の募集
(助成金制度)について.....4
- ◆スポットライト.....31
平成20年度税制改正で認定NPO法人
制度が大幅に改正されました
- ◆福祉活動最前線.....32
児童虐待防止に取り組む民間団体
- ◆チャレンジレポート.....38
 - ・特定非営利活動法人自立センター
むく
 - ・社会福祉法人四日市福祉会
 - ・たんぼぼハウス
- ◆NPOゼミナール.....44
NPO立ち上げから運営までの
基礎知識 (第1回)
- ◆NPO自治体協働事業レポート.....48
乾電池リユース事業
- ◆福祉活動TIPS.....50
切り紙で脳トレしよう
- ◆再録 メイコのいきいきモーニング...52
- ◆東西南北.....54
- ◆福祉関係シンボルマーク.....55
聴覚障害者標識

福祉医療機構では、平成20年9月1日から10月31日までの間、平成21年度助成事業の募集を行っています。
P4～P30に「平成21年度助成事業の募集(助成金制度)について」特集しています。
たくさんのご応募をお待ちしています。(募集要領等、より詳細な情報は福祉医療機構のホームページ(<http://www.wam.go.jp/wam>)をご覧ください。)

「WAM(ワム)」は、福祉(Welfare)と(And)医療(Medical service)の頭文字をとって名づけられた、独立行政法人福祉医療機構の略称です。



親子も学生もスタッフも
共に育ち合う場

「伝承遊びを次の世代に伝えたいという思いがあり、半年ごとに、テーマを変えて取り組んでいます。実際に作ったものを使って子どもたちの反応を見ることができると、学生には刺激になっていようです」と、大西さんはやわらかに話します。

木のぬくもりを感じるおもちゃがたくさん用意されており、子ども同士で遊ぶ姿、親子で遊ぶ姿がみられます。1人で遊べるおもちゃも意識的に多くしているのだそうです。ペットボトルなどを利用した手づくりおもちゃもたくさんあります。
スタッフは、安全に遊べるように見守りながらも、子どもの遊ぶほうとして介入しないのを原則



親御さんの協力により、保育科教員から授乳を教わる学生。

としています。この考え方は親御さんにも波紋のように広がり、子どものやり方に介入しなくなっています。人見知りが始まった子どものお母さんが「ここに来ていろんな人に会えば人見知りもしなくなるかと思つて」と不安そうに言うのと、スタッフは「人見知りは成長していることでもあるのよ」とさりげなく安心感を誘うように会話が進んでいます。

生後1か月の
赤ちゃんとお兄
ちゃんを連れて
久々に来場した
お母さんは「上
の子が退屈しち
やつて」と話し、
お兄ちゃんは、
同じぐらいの年

代の友達と思いつき遊びことができました。その間お母さんは、仲間とおしゃべりがはずみます。
「学生たちも頑張つてお母さんに話しかけています。授乳やオムツ交換の方法を教えていただいたり、いい経験させていただいています。利用者も学生もスタッフも教員も、共に育ち合う場になっていると思えます」と、大西さんは教えてくれました。

取材協力

札幌大谷大学短期大学部
つどいの広場「んぐまーま」
〒065-8567
札幌市東区北16条東9丁目
札幌大谷大学西棟校舎5階
TEL&FAX. 011-742-1690
<http://ngma-ma.boo.jp/>